

## <第 91 回 HSE セミナー 講演紹介>

■テーマ：「健康寿命延伸に向けて」

■講師：浦田 千昌 氏 （認定特定非営利活動法人健康ラボステーション 理事長）

健康サポート薬局が昨年 10 月よりスタートしたが、どうにも動きが鈍い。同様に、「新しい総合事業」と呼ばれる地域事業もなかなか前に進んでいない。その理由はどこにあるのだろうか。国の求めている方向性は「未病・予防」である。高騰する医療費・介護費を根元の部分から改善しようという方向に向かっている。現状では地域活動に認められない薬局イベントであるが、積極的に挑戦している薬局もちらほら出ている。そこにある理想とは「地域のためにできること」ではないだろうか。これからの薬剤師の姿として「薬を飲まなくてもいい」世界を作ることも必要なのではないだろうか。今回はそんな思いを持ち立ち上がった講師の話聞いてみたいと思う。

### <講師紹介>

平成 3 年立命館大学経営学部卒業、住友銀行入行、平成 15 年株式会社育星会（カイセイ薬局チェーン）に入社。平成 22 年から「地域に出向く薬剤師」をコンセプトに高齢者施設や病院内でのセルフ健康チェックをはじめ、ウォーキング大会やグランドゴルフ大会に出向き、健康測定会や健康相談を実施。3 年間で 1 万人の測定、相談を達成。平成 25 年に「健康ラボステーション」を立ち上げ、平成 27 年 3 月に認定特定非営利活動法人に認定される。

.....

■テーマ：「医療・介護・保育分野の規制改革について」

■講師：林 いづみ 氏 （桜坂法律事務所 弁護士 / 規制改革推進会議委員）

新しい薬局の形として突如「敷地内薬局」（門内薬局）が出てきた。報道こそされていないが、把握されているだけでも 20 カ所近くが開局されている。地域住民の「かかりつけ」を進めてきた業界と正反対にある「敷地内」。厚労省も意を決して「災害医療センター」の敷地内公募に「待った！」を掛けたが、これが新たな火種を生んでいる。医薬分業より 40 年。分業政策の過渡期に来ているといわざるを得ない。ブランド力、資本力、競争力では大手調剤チェーンにはかなわず、敷地内薬局の乱立は地元薬局にとって脅威でしかない。この議論の行く末に、2025 年の薬局の姿が隠されている。

### <講師紹介>

早稲田大学法学部卒業、司法研修所卒業（38 期）後、名古屋地方検察庁検事を経て 1987 年弁護士会登録。日本知的財産仲裁センター長、日本弁護士連合会知財センター委員長等を歴任。2008 年より中央大学法科大学院客員教授、2013 年内閣府規制改革会議委員、2016 年 7 月より規制改革推進会議委員を行っている。その他、知的財産戦略推進本部委員、産業構造審議会・知的財産分科会委員、科学技術学術審議会専門委員、東京 2020 マスコット審査会委員など多数。

.....

■テーマ：「2018 年同時改定と病院連携」

■講師：中村 哲生 氏 （医療法人社団 永生会 特別顧問）

医療業界のみならず、薬局業界でもこの講師の名前を知っている人は多いのではないだろうか。在宅専門クリニックのパイオニアと言える存在である。地域医療構想により、多くの地域でベット数が減少する。今後、療養型病床の廃止により、多くの高齢者が地域に戻ってくる。在宅医療のピーク期を迎えるといっているのではないだろうか。その中で、薬局薬剤師の姿はどのように映っているのかを再認識したいと思う。HSE でも数多く在宅医療を取り上げてきたが、まだ取り組めていない薬局が多くあるのはなぜなのだろうか。今動かずして、生き乗る薬局像を見ることができない。薬局の在宅医療も「やれる」から「なにができる」という時代に突入している。

### <講師紹介>

1988 年、東海大学工学部卒。同年に渡米し、ペンシルベニア州テンプル大学語学留学。90 年に帰国後、スポーツ振興（株）などを経て 95 年、医療法人黎明会の理事に就任。2000 年には訪問看護ステーションとヘルパーステーションの効果的な機能分化に関する研究会研究員を務めた。同年、（株）エムイーネットを設立し、代表取締役就任。退任後はメディネット（株）取締役就任。07 年、オーシン（株）取締役就任。11 年 12 月末に退任後は、在宅医療アドバイザーとして、在宅療養支援診療所・在宅訪問診療クリニックなどを手掛ける医療法人社団南星会事務局長・顧問を兼任。17 年より医療法人社団永生会の特別顧問に就任。